

埼玉大学教養学部主催・教育協力会後援
講演会

エルザ＝バイール・グチノワ
(歴史学博士、サンクトペテルブルグ・ヨーロッパ大学客員研究員)

「日本軍捕虜のソ連収容所についての回想にみるトラウマの言語」

日時 2016年4月12日(火) 14:40-16:10

場所 埼玉大学教養学部棟23番教室

講演趣旨

日本とロシアの関係はいくつかの問題を抱えていますが、その一つに「シベリア抑留」があります。第二次大戦後、投降した日本軍将兵が不法に抑留され、苛酷な条件の下、シベリアや中央アジアで強制労働を強いられた出来事で、謝罪・補償等の面で未だに両国間で解決を見ていません。

これは我々日本人にとって重要な問題ですが、旧ソ連の人びと、とくに第二次世界大戦前後に民族ごと強制移住された人びと(チェチェン人、カルムイク人、クリミア・タタール人、朝鮮人など)、また政治犯として収容所に送られた人びととその子孫にとっても、相似た境遇を強いられたという意味で重要な問題です。

この度、カルムイク人の強制移住について著作のあるエルザ＝バイール・グチノワ先生をお迎えし、日本軍捕虜が抑留生活について描いた絵や回想についてご講演いただきます。

旧ソ連研究者の側からの研究に新しい発見があるかもしれません。皆さまのご来聴を歓迎します(通訳有り)。

講師紹介 エルザ＝バイール・グチノワ。歴史学博士。サンクトペテルブルグ・ヨーロッパ大学客員研究員。カルムイク民族研究の権威。近年はシベリア抑留にあった日本軍捕虜の回想録の研究に取り組んでいる。著書・論文多数。

※本講演は埼玉大学教養学部の授業「スラブの歴史Ⅰ」の一環として行われますが、一般学生、教職員、地域の方々にも公開して行われます(予約不要)。

※本講演は日本学術振興会の支援を受けています(科研費「ロシア文化の構築：国際共同研究による創出的アプローチ」[26284045])。

連絡先：埼玉大学教養学部ヨーロッパ・アメリカ文化専修
野中進

電話：048-858-3042

ファックス：048-858-3685

メール：nonaka@mail.saitama-u.ac.jp